

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【福岡県立輝翔館中等教育学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第3学年3クラス85名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1) パラスポーツについて、実際に体験「する」、その活動を「支える」、「見る」「調べる」などの活動をとおして、障がいのある人々への理解や気づきを生み出す。 (2) パラスポーツについての学びを通じて、世界中の人々が持つ人種や文化、宗教、価値観などの多様性を尊重し、世界レベルで活躍できる人間を育てる。
5 取組内容	パラスポーツを「する」体験だけで終わらず、「支える」体験を行った。 (1) NHK アニメ×パラスポーツ「アニパラ」視聴 ・視覚障害者マラソン ・パラサイクリング ・パラ卓球 ・車いすバスケットボール (2) 視覚障害者ランニング体験 競技者と伴走者のいずれも体験させた。 視覚障害者ランニング体験において、競技者と伴走者がお互いに近い側の手に持ち、その張り具合でお互いの距離、スピードなどの情報を得る「キズナ」と称される道具を模して作ったビニール紐製の輪を用いた。 ① 直線をランニング。ゆっくり歩く速度から始め、スタート及びストップの合図の確認。最終的には視覚情報が入

	<p>ってきていて走る状態に近づけていけるようにする。</p> <p>② カーブ、折り返しなどランニングを行うコースに変化をつけた。</p>
6 主な成果	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないことの不安（怖い）を知ることで、サポートする側の大変さを実感できた。 ・iPad で撮影された自分のランニングを見ることで、イメージと実際の動きのギャップを知ることができた。 <p>これらの感想から“他者の特性を知るとともに自己理解の大切さを学ぶことができた”と考えられる。</p> <p>「支える」者と「する」者の信頼関係の重要性に気づき、的確にきめ細やかな指示することを考えることができた。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>パラリンピック開催期間中だけでなく大会後もその種目に興味を持てるよう、福岡県に所縁のある選手が実践している種目について体験種目として設定した。</p>
8主な課題等	<p>「支える」者と「する」者の信頼関係の重要性に気づき、的確にきめ細やかな指示を考える時間をとる。</p>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、継続して3学年の保健体育の授業において実施予定。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【福岡県立輝翔館中等教育学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第3学年3クラス85名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) パラスポーツについて、実際に体験「する」、その活動を「支える」、「見る」「調べる」などの活動をとおして、障がいのある人々への理解や気づきを生み出す。</p> <p>(2) パラスポーツについての学びを通じて、世界中の人々が持つ人種や文化、宗教、価値観などの多様性を尊重し、世界レベルで活躍できる人間を育てる。</p>
5 取組内容	<p>ゴールボール体験</p> <p>1クラス単位（3年1組28名）で実施した。その中で、ボール内の・の音が聞こえづらい特性を有する生徒がおり、視覚情報を遮った状態に非常に不安を感じていたため、各グループ内に1名から2名「支える」役割（コーチ）を設定した。最終的には、整列場所からコートへの（アイマスクを着用した状態の）選手の誘導、守備位置の確認用マーカーの設置、コート外に出たボールを選手に渡す役割を担った。</p> <p>① 全員がアイマスクを着用し、視覚情報を遮った状態で、転がって向かってくるボールからゴールを守る体験を行った。 (写真①)</p>

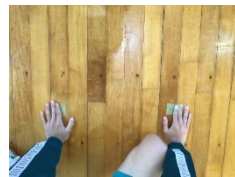


写真①

	<p>② 複数の選手が転がってくるボールに対して反応し、全身を動かす際に、接触が起こらない守備位置の工夫することを指示した。その守備位置を視覚情報を遮った状態でも正確に把握できるマーカーの設置し（写真②、自身の手や肩幅など、自身の体の一部をスケールとして見立て、マーカーから距離を読み取り守備位置を決めた。守備位置を手探りで確認するためのマーカーをテープを用いて作成した。（写真③）</p> <p>③ ミニゲーム 整列場所から誘導、ゲームの準備、ゲーム、再び整列場所に戻ってくるまで選手となった生徒はアイマスク着用したままの状態コーチの指示、誘導に従う。各グループ専属で撮影する係を設定し、ミニゲーム活動までの一部始終を撮影した（写真④）。</p> <p>④ 撮影した映像を視聴し、振り返りを行い（写真⑤）、感想を書いた。ボールの転がる速度が大きくならないよう、バウンドや変化球、ボールの転がすコースの角度、足音を出して注意をそらすなど工夫するよう指示した。「支える」者が「する」者に対して、どのような声かけ、ガイドが適当なのかを考えさせる時間を作った。</p> <p>実践後、「する」者から「支える」者へ、声かけ、ガイドに関するフィードバックを受け、「支える」者から「する」者へのプレイに関するフィードバックを受け、双方が改善できるようにした。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないことへの不安（怖い）を知ることで、サポートする側の大変さを実感できた。 ・公認ボールはとても硬く、受け止める時に痛かった。改めて選手の凄さを感じた。 ・iPad で撮影された自分のプレイを見ることで、イメージと実際の動きのギャップを知ることができた。 <p>これらの感想から“他者の特性を知るとともに自己理解の大切さを学ぶことができた”と考えられる。</p> <p>「支える」者と「する」者の信頼関係の重要性に気づき、的確にきめ細やかな指示することを考えることができた。</p>



写真②



写真③



写真④



写真⑤

7実践において工夫した点 (事業の特色)	パラリンピック開催期間中だけでなく大会後もその種目に興味を持てるよう、福岡県に所縁のある選手が実践している種目について体験種目として設定した。
8主な課題等	<p>ゴールボール競技の公認ボールは、非常に硬いため、紹介にとどめ、使用には・入りの材質の柔らかいものを選択する。</p> <p>準備するボールの数を多くし、目が見えないことへの不安(怖い)のレベルを少しでも低くするために、視覚情報を遮った状態での守備の練習を多くできるようにする。</p> <p>「支える」者と「する」者の信頼関係の重要性に気づき、的確にきめ細やかな指示を考える時間をとる。</p>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、3学年の保健体育の授業において実施予定。